

令和5年度第2回会津若松市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和5年10月5日(木)
開会 午後2時30分 閉会 午後3時25分
- 2 場 所 會津稽古堂 研修室2
- 3 出席者 市長 室井照平
教育長 寺木誠伸
委員 秋山理恵
委員 田中裕志
委員 秋月淳子
委員 林健幸
- 4 事務局出席者 教育部長 佐藤哲也
副部長兼教育総務課長 山口勝彦
生涯学習総合センター所長 秋山敏也
学校教育課長 鈴木智浩
// 主幹兼指導主事 高橋純子
// 主幹 長澤毅
教育総務課副主幹 福原英則
// 副主幹 小檜山智晶
- 5 協議題 (1) 学力向上対策について
(2) その他

6 議事の概要

○開 会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 秋山 理恵委員、林 健幸委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長> まず、本日の会議ですが、非公開の内容が含まれておりますことから、非公開として進めたいと思います。

早速に協議に移ります。本日の協議題は、「学力向上対策」についてであります。学力向上については、これまでも様々な施策に取り組んでいるものの、目標値達成には厳しい状況が続いております。7月末に文部科学省が公表した、令和5年度全国学力・学習状況調査結果においても、本市は全国の平均正答率を下回っている状況であり、学力向上が重要な課題であると認識しているところです。

本日は、こうした結果の状況やこれまでの取組状況を説明させていただき、学力向上に繋がる効果的な取組などについてご意見やご提案をいただき、今後の施策に反映してまいりたいと考えております。

それでは、「全国学力・学習状況調査結果」について、事務局から説明をお願いします。

<事務局> 「全国学力・学習状況調査結果について」説明

<議長：室井市長> ただ今、説明がありましたが、全国学力・学習状況調査結果について、ご意見、ご質問などがありましたら発言をお願いいたします。

<林委員> 小学校の時は結果が良いのに、中学校になると下がってしまうことが多く見受けられます。一方、中学校の方が結果が良くなっていることもあります。こうした状況に対してどのような見解をお持ちでしょうか。

<事務局> 中学校で結果が伸びているかどうかについては、令和2年度は全国学力・学習状況調査を実施していないために追跡しかねるところですが、実際、今年度の調査結果については新聞発表にありました通り、会津地区の子ども達は小学校では国語、算数において県内では高い方のレベルにありますが、中学校になると全ての教科で県内において低い結果になっております。

<林委員> 塾に通っている子ども達も多いと思いますが、塾に通っている子どもと通っていない子どもで、どのくらい成績に差があるか把握されているのでしょうか。

<事務局> 把握はできておりません。

<林委員> 塾に通っている子どもと通っていない子どもでは、高校の時点で大きく差があると進学校の校長先生からお聞きしましたので、小学校や中学校でも塾に通っているかないかで差があるのかを知りたかったのでお聞きしたところでした。

<秋山委員> 全国学力・学習状況調査において、「家で計画を立てて勉強している」、「先生が分かるまで教えてくれていると思う」と回答した子どもの割合が全国平均を上回っていますが、結果に反映されていない状況があります。その点について疑問に感じましたが、どうお考えですか。

<事務局> この点については分析が難しいところですが、各学校に対しては授業改善に取り組むよう指導しております。指導力の向上が必要な先生がいる場合は、学校から指導主事に依頼があり、継続的に支援や指導を行い授業の改善を図っております。学校では子ども達が着実に力を付けるよう一生懸命取り組んでいますが、結果に現れてきていない状況ですので、今後ご意見をいただきながら対策を図ってまいりたいと考えております。

<林委員> 先日、教育委員の研修会がありました。その時に他自治体の教育委員会の方にどのような学力向上対策を行っているか訊いたところ、スーパーティーチャーといって先生のための先生を呼んで授業を見せたり、問題の意味がわからない子ども達が多くいる現状があるということで、リーディングスキルテストというものを実施しているという話を伺ったところでした。

<議長：室井市長> 情報提供ありがとうございました。

<事務局> リーディングスキルテストについてでございますが、このテストは文章の読み方に関するテストでして、県のホームページには実践事例集がアップされており、各学校で活用できるようになっております。

<田中委員> テストに向けて事前に対策はされているのでしょうか。また、同じ中学校でも、数学の正答率が高いのに英語の正答率が低かったりします。これはどういった違いがあるのか、考えられる原因をお聞かせいただきたいと思っております。

<事務局> 事前の対策についてですが、今回の調査結果を受けて臨時の校長会を開き、対策について各校長からご意見をいただいた折に、小学校では調査を意識した補充学習を積んでいる実態はあるようですが、中学校では小学校に比べれば学習の機会が少ない傾向にあるとのお話がありました。また、同じ学校であっても教科によっ

て正答率に開きがある点については、指導力も大きく関連しているところではないかと考えております。

<議長：室井市長> 私からですが、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」との質問に対し、小学校では本市の目標値である「1時間以上勉強している」と回答した割合が全国平均を上回っている一方で、中学校では目標値の「2時間以上している」と回答した割合が、全国平均を下回っています。この結果をみると、目標をクリアできるようであればよいと思いますが、この点はどのように分析されていますか。

<事務局> 中学校の家庭学習についてはここ数年来の課題となっておりまして、家庭学習の質と量をどのように充実させるか方策を検討し、取り組んできたところであります。学力調査の結果と学習時間の関係を見ると、中学校については2時間以上勉強している子ども達の正答率と2時間に満たない子ども達の正答率が逆になる傾向もございまして、つまり、長い時間勉強している子ども達よりも短時間で勉強している子ども達の方が成果が上がるということが結果に出てきたりします。それにしても、全国値を下回っていることについては、家庭学習に対する取組が今年度の重点事項でもありますので、これから特に取り組んでいきたいと考えております。

<議長：室井市長> 同じく、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」との質問には、小学校では「1時間以上勉強している」と回答した割合が全国平均を上回っていて、中学校では「2時間以上している」と回答した割合が全国平均とほぼ同じとなっています。ここは目標値に近い時間は勉強しているものと思いますが、結果にどう繋げていったらいいのかが難しいところだと思います。この点はどのようにお考えですか。

<事務局> 家庭学習のやり方や内容にまだまだ改善の余地があると考えているところであります。

<秋山委員> 家庭学習というのは塾の時間は含まれているのでしょうか。

<事務局> 塾の時間も含まれております。

<議長：室井市長> 中学校では塾に通っている子どもの割合はどの程度ですか。

<事務局> 以前一部で情報収集した結果では、大規模校においては通塾率は30パーセント程度でございます。

<議長：室井市長> 先程、中学校の英語の話がありましたが、英語の授業は中学校から始まるのでしょうか。それとも小学校からですか。

<事務局> 外国語活動が小学校3、4年生でありまして、外国語科として5、6年生で取り組んでおります。

<議長：室井市長> 時間数はどのくらいですか。

<事務局> 3・4年生は週に1時間、5・6年生は週に2時間です。

<秋月委員> 1人1台タブレットが導入されていますが、週末の持ち帰りの状況についてお聞かせください。

<事務局> 昨年度は教育委員会で曜日を決めてタブレットの持ち帰りを始めましたが、今年度は学校の計画に従ってタブレットを持ち帰っている状況です。学校によっては予算の範囲でドリル教材を購入し、家庭で学習できるようになっております。

<議長：室井市長> デジタル教材は持ち帰りのタブレットからでもアクセスできるのでしょうか。

<事務局> インターネットを介して使用する教材に関しては全ての家庭で環境が整っている状況ではありませんので、タブレットにインストールできる教材を活用している学校もございます。なお、教育委員会ではモバイルWi-Fiルーターを無料で貸し出しできるサポート体制は作っているところです。

<林委員> 私は教育委員になって7年目になりますが、小学生の時は全国平均くらいの正答率なのに中学生になると低下してしまうことが多く、いつも疑問に思っていたところです。原因としては何かあるのでしょうか。

<事務局> 全国学力・学習状況調査の教科の問題文は小学校と中学校ではかなり量やレベルが違い、問題文を読み取る力を培っておく必要があるとの面もあります。

<秋月委員> 調査結果を見ると、先生方の対応については満足している中学生が多いので、あとはやる気の部分をどうやって引き出していか、そして勉強と部活と遊びのメリハリをどういう風に付けていくかでしょうか。

<事務局> 平成29年度に新学習指導要領が示され、中学校においては令和3年度から完全実施となっておりますが、新しい学習指導要領では主体的・対話的で深い学びを重視するような授業の作り方が求められております。しかしながら各学校の教員が新しい授業の作り方を深められていないところも多分にあるのではないかと思います。中学校の教員は話しすぎたりすることが多く、考えさせる時間を十分に確保できていない部分があるものと個人的には考えております。

<議長：室井市長> それでは、ここで一旦、次の「あいづっこ学力向上推進事業について」事務局より説明をお願いしたいと思います。

<事務局> 「あいづっこ学力向上推進事業について」説明

<議長：室井市長> ただ今、説明がありました。ご意見、ご質問などがありましたら発言をお願いいたします。

<林委員> 昔は先生から手を動かさないと覚えられないと教えられてきました。読むだけではなく、とにかく手を動かして文字をたくさん書かないと覚えられないと。今はデジタル化が進んでいますが、このように筆記することも進めていたりはそののでしょうか。

<事務局> 学校では、デジタル教科書やデジタル教材を活用し、児童生徒の理解を助けたりイメージをもたせたりして授業をしておりますが、書く指導についても教科指導の中に位置付けて取り組んでおります。

<秋山委員> チャレンジテストは全国学力・学習状況調査の前に実施されているのでしょうか。

<事務局> チャレンジテストは全国学力・学習状況調査の前に実施しております。こ

のテストは教員の研修という意味もございまして、全国学力・学習状況調査を意識した問題作りをします。問題を作成する先生方が問題を分析して、子ども達にどういった問題ができるようになって欲しいかを考えてチャレンジテストを作成します。

- <秋山委員> チャレンジテストを全国学力・学習状況調査の前に実施していれば、ある程度は弱いところを把握できるかと思います。そういった弱い部分に力を入れて指導されたりしているのでしょうか。
- <事務局> 各学校ではテストが終わると結果を分析して弱みを把握し、どのように指導していくか対策を立ててやっているところです。チャレンジテストについては振り返りの時間を設けて理解を深めるようにしておりますので、活用もうまくいっているものと考えております。
- <田中委員> アクションプランとして様々な取組をやっていらっしゃると感じました。あとは現場の声を吸い上げることも大事かと思います。例えば、アクションプランはあるけれど、現場では時間や労力に無理がある、あるいはバランスが良くないなどの声はないのでしょうか。
- <事務局> 各学校からは研修への参加などが難しいとの声がないわけではないのですが、例えば学校教育指導委員会につきましても研修が2回ありますが、昨年度よりも回数を増やしているということはなく、集まっていただく回数の中で時間をやり繰りして研修を盛り込んでおり、なるべく負担なく学校で活用していただけるよう配慮しているところです。また、会議の中で校長先生から出された意見としましては、県で作成する活用力育成シートについて、現在は学校が県でアップしたデータをダウンロードしてシートを活用していますが、ダウンロードや印刷に手間があるので教育委員会で準備してもらえれば活用しやすいとのご意見がありました。
- <議長：室井市長> チャレンジテストについては対象学年が小学校5年生と中学校2年生になっていて、全国学力・学習状況調査が小学校6年生と中学校3年生ですので、チャレンジテストの振り返りを行うことを考えると時期的に非常に良いものと思います。それと、タブレットを導入して以降、デジタル教科書を多く入れて欲しいなど現場からの声があれば教えて下さい。
- <事務局> デジタル教科書につきましては、今のところ英語と算数・数学が入っておりますが、今年、小学校の教科書採択替えがありましたので、来年度からのデジタル教科書の導入については予算の協議を進めているところです。現場の声としましては、家庭学習で使用するドリル教材などを整備して欲しいとの話をいただいております。今はA Iドリルを試行的に活用しているところですが、インターネット環境がないと使えないことを考えますと、単体で使えるものがあるとありがたいという声がありました。
- <議長：室井市長> デジタル教科書について説明願います。
- <事務局> デジタル教科書には画像や音声が付加されております。紙の教科書でもQRコードが記載されておりまして、タブレットでQRコードを読み込むとサイトに繋がって情報を得ることができますが、デジタル教科書ですとタブレットに教科書が入っていますので、QRコードで繋がなくても音声や画像などの資料を見ることが出来るものです。
- <議長：室井議長> 時間もありますので、ここで全体を通して学力についての皆様のご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

<秋月委員> これだけの取組を行っていますので、少しずつ結果が出てくるものと思います。あとは今後さらに家庭との連携も大事になってくるかと考えます。それと今年は特に猛暑でしたが、体育館で活動するにあたっては大型冷風機やスポットクーラーなどの設置が必要だと思います。猛暑ですと、体育の授業でプール活動や屋外活動をすることが難しいと思いますし、涼しい体育館で体を動かすことで勉強とのメリハリが付いて、学力にも繋がっていくと思います。こういった環境の整備も考えていくべき時期にきたのではないかと思います。また、部活動の地域移行も進み、週末には地域の方が体育館で指導にあたってくださるので、そういったお声も出てくるものと考えます。

<林委員> 私は学校の図書室が大事だと思っていますが、図書室の参考書や問題集の配備については学校によって差があるのではないかと思います。図書室に教材が揃っていて勉強ができる雰囲気整っている学校は成績も良いのではないかと思います。それが、話は変わりますが、学力向上を図るためには、目標を明確にしていくことも必要だと思います。

<教育長> 昨日、学力向上推進委員会を開催しておりましたので、会議における有識者の方からの意見等について事務局から説明をお願いします。

<事務局> 主なご意見としては、「家庭学習については全体的に取り組んでいるけれども、学び方の質を上げていくよう具体的にアプローチすることが必要ではないか」、また、アクションプラン1に関連することについては、「教師への支援については教師の声を反映させていくという視点が大切ではないか」、また、チャレンジテストに関連しては、「解説を各学校に任せているが、例えば簡単なものからでもいいからYouTubeなどで優れた解説動画を見れるようにすれば、子ども達が繰り返し学べるのではないか」とのご意見をいただきました。

<教育長> 学力向上推進委員でいただいた様々な意見を参考にしながら、また次年度に向けて準備していきたいと思います。中学校で思うように成績が上がらないのは教員の学力調査に対する意識改革が進んでいないこともあるかと思います。今後、いろいろな改革が必要だと思っていますが、まずは中学校の先生方に全国学力・学習状況調査に向けた準備をしてもらいたいと考えています。そのためにはチャレンジテストの時期をもう少し早くできないかと個人的に考えています。周辺の市町村でもチャレンジテストを実施しているところがありますので、話し合いながら時期を検討していきます。そうすると対策を立てる時間を持つのではないかと。また、市町村ごとに通塾率に差があるか調査できないかと思っています。そこに差があるのか、それとも差がないのに本市の成績が芳しくないのか。その辺も対策を立てる上で重要だと思っています。さらに、アクションプランを各学校がしっかりと実施していけるよう取り組んでいきたいと思います。これまでも教育委員会で色々取り組んできました。県内各市と比較しても取組が足りないということはありません。ただ、結果として出てきていない状況です。何とか結果に繋がるよう今後もご意見をいただきながら頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

<議長：室井市長> 今回の議題は非常に難しい内容ですが、皆さんにいろいろご意見いただきましたので、今後の事業に反映して参りたいと思います。

それでは、本日の全ての議題についての協議が終わりましたので、閉会いたします。

○閉 会